

## 台湾の思い出(三)

山川東平

台北の台湾人の町(トアヒ云う)でもどんな田舎へ行つても凡そ本島人の住んでいる所なら竹で作った大きな残いするに草の根や虫等を乾し家の中には手からひたわけのからないクロテスクな品物を少々並べまるひ客算走もしれないし情ちもしないよと云つた風な急入にやきあがてこつてりとつやの出た顔の老人の居る漢法医の店くそくは全く店らしきはないのだが)があるものが、漢法医は土民にヒツでは靈ケンあちたかち一つの宗教寺のだ。彼等は患者を一覗見たゞけひその病気を知ることが出来る。そして言う“この病気は火す治してあげる”と、患者の渡された神薬はなんヒゲレゴロウの干したのであつたと云。以下漢法医の使つてゐる薬用動物を挙げてみよう。昆虫にも少しは關係がありそうだ。

台湾名	動物及び部位	用途
生山甲	センサン」フの甲	不明
望月望	ムカヤの糞	五毒
鹿	ケンゴロウ	通性
地鷲	シナゴキブリ	打撲症
蛇	ヨコシマハシメョウ	皮膚病, 手生薬
双蝶蛾	カエキリの卵塊	寝小便に効く
盲鳥	ウシアフ	通性, 血吸虫
蠅蠅	エカネムシの幼虫	不明
蠅蠅	スグリムシ?	不明



其の他ヒルタリオオトリシゴムカヘキガエル, ヤモリ, ハリタガミ, 鹿の鹿角等々多種多様を珍りな動物が總動員されてゐる。さかせはもつとそつとあつたに違ひない、内地でもこうした民間薬が行はれてはいるようであるが民族的にも面白い問題であらうが昆虫學の側面としてたゞつて見るのも面白う系ではないだろうか。

(29) 3

クロオオアリ

冬野村 菊田郡御津村

*Camponotus (Camponotus) herculeanus* Santschi, *Ligniperda*, var.  
ムネアカオオアリ

津山市

半型鉢 1尾 1♀雄(性転変後を含む)

以上は私が1950年に収集した蝶類の内、現地産のもので、標本の頭部は全部正面顎式に仮説した。



アサマイチモンジ おとし山みに計玉しておさすて諸君是知  
倉敷にも産す

*L. imenites* gen. n. (昆虫類報)

FRUMSTORFER アサマイチモンジ

キヨウは新しく日本大島西端に上り口東に  
ば本州北部(高森県)より中部地方に亘  
つて番じ、その他紀伊半島にも廣し  
又九州大分県日田でも唯一圓形捕虫  
記載があるとのこと。ところで吉井  
弓に小野洋君が本種が道後山及び開  
山県井登、方谷向で採うちてひるこ  
とを報じていたのに興味を覺え故モ  
採集を長く継続したところ。今や  
モシヨウに品、てりた本種半頭  
を発見出来たのでこゝに報告してお  
きます。

高島県道後山 2尾 1950.4. 算木林業  
郡庄原 岩田 1尾 5.1. 1951 賀茂捕虫  
倉敷市 池波 1尾 内V. 5.1 駒場山地  
“すずむし”剣羽翼には前に小野  
洋君にとりれや思ひに附てイチモン  
ジヨウを複数1尾と書かれていた  
が、この付此の度の調査でアサマ  
イチモンジナヨウと判明してのこゝ

4 郡弓に報告されたアサマイチモンジ  
シヨウの記載を要いておさす  
た水、更に次へ記録が見つかれば  
たれで報告しておきます。

高島県道後山：頭一節以下、触脚  
夏型なり。白帯にかたり強烈な黒端  
に区別出来ます。左側を學名船石に  
上川洋吉等著者名で紙ら印した事  
尼茶人所写真を採うちた事のほか  
すれニアガラナミンジひと。たじ  
云う事がありまつて此で多數に  
がけらチセヒヤモウの體形を記  
載がなくなつてしまひましたが、昨年  
一組出でたりてせひ少數採られた  
と云うことを聞けておりまつてから  
記載されただけでは“すゞむし”等に  
に御報告下されば幸ひ思ひます。  
(小野弓)



4(30)

## シリウアシシミ 念敵に産す。

山裏に本郷を産すこと有難らざりてはれど、此をが本郷で採られたるを知らぬ。本王も月日は農田で一族を攻撃するこじが出来たのでお詫びせしをす。

(白神 昭)

## 本年度アケハチョウ の初飛について

敵に射けるアゲハチョウが出現に付けては當に誕生の御つまりし生駒をそなむので本年度豊作が振るひアケハチョウの初飛について記すことをす。

### 記録

場所	志村の酒肆
立派	上上之優等足並
当社	3月28日午後3時頃
天候	晴暖、氣流下昇
飛行者	九羽、一部

かくの日午後を志村酒肆にて坐地から下駄を脱ぎて出走跡に付けておき、そこを走りたる下駄へと目と脚に丸印を出張するやうである。だからこの記録はつまり早いものではあるが大半處に於てはこの記録より早いものと見て取れてはいる。さてその後は現状況をつけ加えると以次3月29日夕刻山、29日午前、4月9日開山市内等で観察し4月1-3日には出現期の本郷に算を客の附近に見る事もあつた。

本波便だいたり見うれるやうになつたので4月13日を機縁初飛日としておりだらうか? さて斯くては少數の登録により経緯がわざる事けで是のようち大器を置けばやからをり。かく本郷好名館たのうちアケハチョウの五年度現はは過去の年の出現記録を取つ人は軍需にお詫び下さい。本郷車であります。この車うち機縁は同様空氣が拂附して付つたらどうですか? ゼムヤツて變なうとのである。ちおこ車あらかと機縁生報に付たつて現度の機縁を定めたりと考えて居りますので今後よろしく同様空氣の御協力をお願いいたします。

(広報 第5号)

## アカタテハ の一食草

アカタテハの食草としてイラクサ科のエリイラクサ、オリヒイラクサ、マオ(カラムシ)、ヤグマ、ラミー、アカツキのカナムグサ、ホッフ、ニレ科のルバニシ、アシニユニシ(新村太郎著鏡の生態より)が知られてゐるが、昨年4月29日調査に附たしては、その100%が食弱をも手にした草食た産卵しつゝあるアカタテハを見た。面白いと思って附近のアブマオを採した状態のモモ和風に差附されていらずより以上に見つけることに出逢なかつた。その脚をイキナク

で飼育したが、初號頭から血と頭だけ羽化した。この頭蓋の結果はやはり良好くなかったが私の観察したところの場所ではヤブミキナリによるかに多く産卵されていた。自然状態での生長を見るとカリヤウラもまた生きのびやくが切り取られてしまつて観察することができなかつた。アカタテハの食草としてモチヤクを加えて良いかどうかわからなかつたが、一応完遂する。

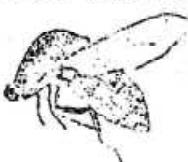
(白神 昭)

## アサマイチモンチの記録

**次**の板に私の研究室で育成された、小野慎夫君の標本中にアサマイチモンチを見る機会を有せしキナリ。小古島集落山田 25.7.26. 9頭。宇都宮市立農業試験場 大山 25.7.26. 1頭。山田吉義郎 沢西村 25.7.30 小野慎夫 (農業) 25.7.30 認定。小野慎夫 一頭。成虫は頭部を黒色を放散し右 *Limenitis* は横すがなり身姿をならか判らぬ。(白神昭)

## アラビケアトアシムシダマシ

**I***Gynopoda orichalcea* Marseul アラビケアトアシムシダマシ。日本從来非常に少々りて云ふんでいましたが最近うちこちで捕られたります様です。今年4月又4日黒田でスリットにて捕れた本種を検査しました。珍らしかばのと思うのでお報します。(白神昭)



## マツタキハバチ子の天敵ヤニサシガメ

**云**る5月12日、明治山でマツタキハバチ幼虫を日向に浴下させたヤニサシガメ成虫を発見した。面白く思つてヤニサシガメの頭を持ち帰り、飼育中マツタキハバチ、マツタキハバチ子を幼虫の中に放して置いたらかうな迄五頭の幼虫が平げられてゐた。

(白神 昭)

## 訂正追記二三。

**I** 所をもじりてヨカラシロミドリシジミ倉敷に産卵の報告について追記します。ヤクモ研究の結果予想通り本種であることが確認され本種が寄生に適することは疑ひのないところをなつた。本種は西中学校の阿部君が採集して居らるる所があつた。

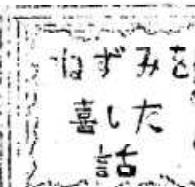
**II** 僕が上記の半島最南端のリナヒシヤ山についての報告にアリア農野さんから小黒田で採集されたワチバントウはマルタセツキハシメウで去年採集されたものではあります。また我々が採集した瀬洋水内に於ても今後3月21日東中学校尾崎君が2匹を採集する所も千日21日1名を採集したので合計14匹の多さに上りました。(左理義鈴)

原

福

6月15日送り山川先生又は小野洋君の所へ出して下さ。

6 (32)



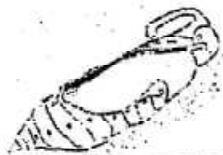
## ねずみを喜いた話

ら号の書簡署のねずみの語で大変面白く読みました。私  
もこねずみには文なら根柢がありますのでここに拙筆の  
文章を披露します。

さてこの結句は年終のこと。何の動向か夏の夕方窓にのぼりと地上を這  
い廻るヌメヌメ船の幼虫が大好きになつて友野君と共に暮夏の天下に人き  
にもヤキイモアガラシヘクリカツラケナシヨリ笑の傍に篠崎閣下モ長島  
館に花を咲かせたがらぬか等を探しセリました。かくして得たシモフリス  
ズメ、オオスカシバ、ヒメホウジウ、ホシホウジウ、ゼウドスズメ等、キイロスカシ  
バスカシメ、ベニスカシメ等(ヤカカラシ)等の幼虫を大切に飼育してしまつて時々  
いはげ食草を与える事を怠らず様な事であったがシモフリスズメを除いて各部鱗  
化に至らせた。この蝶が出来るだけ自然の状態に置こうと思つて樟木鉢の中央  
に頭を工に入れて窓の外に出してありたゞところが翌朝の事である。例の樟  
木鉢をのぞいて見ると少しおか振り返されていて大切に飼はれた跡形もなくなつ  
てゐる。確かにチエウ公の仕業である。やゝどこで公が蛹を生長させたのか一  
瞬の間に一オカ子注意ひチエウ公に食べら小てしまふなんて飛急かたまうち  
。しかし一晩の間に早川奴をさうと天井裏からこめでのやつていたのだから  
前にオオスカシバの完全に鱗粉を落すのを保ようと思つていたしベニス  
ズメが便突を見よかと思つていつた。その後又チエウ公を捕えてこよう  
とぶんぶんと覗かれていたつもりである。又友野君はこの食意張の張つたチエウ公に巣  
廻の蝶を逃のけぬして食べられてしまつたことがあると云つてゐた。  
結局、とかく飼育、夏期にはこのねずみに御要心!!

## 鳥集後記

発行日がよくわづません。原稿が来まらないのでも本をか端葉や  
出来や困つてしまひました。山川先生には御う後に特に御無理を願つて  
台湾の思ひ出を書いていたゞきました。今月号はアサスイチモレチの特集の  
様です皆さん、標木館の隣にも湿地  
であります。次号から皆さんの御  
研究も載せあります



すずむし (ホリセイ5号)

印刷 昭和26年5月9日

発行 昭和26年6月1日

編著者 白辭昭 友野良一

印刷 友野 良一

発行所 新川町立新川小学校理科  
教室内、倉敷昆虫同好会  
(非売品)

岡山県産虫類採集品目録

吉星野 寛

- Genus *Monomorium* Mayr, 1855  
*Monomorium (Monomorium) floridola* Gerdon, 1851  
 ハロ七×アリ 岡田郡大島村
- Genus *Pristomyrmex* Mayr, 1866  
*Pristomyrmex (Pristomyrmex) rufipes* Mayr, 1866  
 アミ×アリ 倉敷市, 郡庭郡皆生村, 上房郡上水田村
- Genus *Lepto thorax* Mayr, 1857  
*Lepto thorax (Lepto thorax) spinosior* Forel, 1901  
 ハリナトムネ木アリアリ 岡口郡大島村
- Genus *Tetramorium* Mayr, 1855  
*Tetramorium caespitum* subsp. *jacoti* Wheeler, 1923  
 トビイロシワアリ 倉敷市, 岡口郡齊島町, 岡口郡大島村
- Subfamily Dolichoderinae Forel, 1878 ハリアリ亞科  
 Genus *Paratrechina* Motschulsky, 1863  
*Paratrechina (Nylanderia) flavipes* F. Smith, 1874  
 アメイロアリ 倉敷市, 津山市, 吉田郡泉山, 黄田郡大森町
- Paratrechina (Nylanderia) sakurae* (Ito), 1914  
 ハナガアリ 上房郡上水田村
- Subfamily Formicinae Lepreletier ハラアリ亞科  
 Genus *Lasius* Fabricius, 1804  
*Lasius (Dendrolasius) fuliginosus* (Latreille)  
 ハロクガアリ 吉田郡泉山
- Lasius (Dendrolasius) synaphicus* (Wheeler)  
 クガアリモドキ 倉敷市, 津山市, 黄田郡大森町
- Lasius (Lasius) marginatus* Olivier var. *japonicus* Santschi, 1941  
 ミヤマトビイロケアリ 吉田郡泉山, 阿智郡里下駄村
- Genus *Formica* Linnaeus, 1758
- Formica (Serviformica) fusca* subsp. *fusca* var. *japonica* Motschulsky 1866  
 ハロキニアリ 岡口郡大島村 吉田郡泉山
- Genus *Componotus* Mayr 1861  
*Componotus (Componotus) japonicus* Mayr, 1866